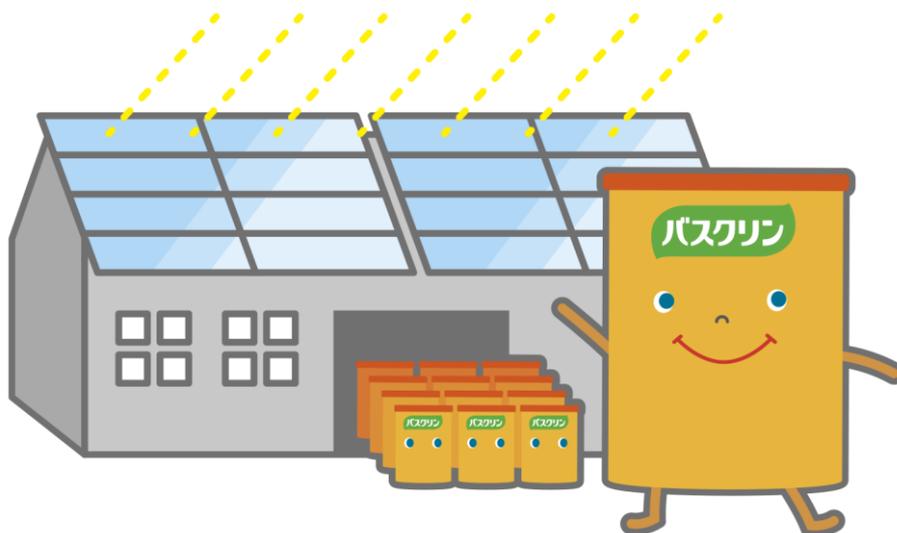


バスクリンのエコレポート

(2023年度の活動結果)



2022年より静岡工場ではCO₂フリー電力の導入を行っています

株式会社バスクリン

第15号

第1版発行：2024年4月5日

第2版発行：2024年6月20日

目 次

トップメッセージ	P-2
1.会社概要	P-3
2.対象範囲	P-3
3.環境経営方針	P-5
4.環境経営目標と活動実績	
4.1 2023年環境活動目標と活動実績（2023年度1月～12月）	P-6
4.2 3カ年環境経営目標（2024年度～2026年度）	P-7
5.2023年度の主要な環境経営活動計画（具体的取り組み内容）	P-9
6.2024年1月以降の取り組み内容	P-10
7.環境関連法規制への違反、訴訟等の有無	P-11
8.代表者による全体評価と見直し結果	P-12
9.環境経営推進体制	
・環境組織図	P-13
10.2023年度に発売された主な新製品・企画品	P-13
11.社内活動のトピックス	P-16
12.工場での取り組み	P-18
13.社外での取り組み	P-18

トップメッセージ

環境経営方針

<基本理念>

株式会社バスクリンは、自然との共生を原点とする企業として、地球環境・地域環境に配慮し、健やかで心地よい生活を提供するため、下記の行動指針に基づき全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。



代表取締役社長
三枚堂 正悟

ECO MISSION

自然との共生それが私たち バスクリン の原点です

私たち株式会社バスクリンは、創業以来、「健康」に関わる事業を展開し、お風呂の源である「水」を大切に、「ものづくり」を行ってきました。

近年、世界では水資源の枯渇や、汚染が深刻化している地域もあり、日本でもより環境にやさしい「ものづくり」が問われています。

私たちはそのような環境課題に対応するため、

栽培した天然原料の優先使用・古紙を利用した製品開発など、さまざまな取り組みを行っています。

限りある水資源と地球環境を守るために

今後もより一層環境への取り組みを加速させ、企業としての使命を果たしていきます。

1. 会社概要

(1) 事業所及び代表者氏名

事業所名 : 株式会社バスクリン

代表者氏名 : 代表取締役社長 三枚堂 正悟

(2) 所在地 : 〒102-0073

東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F

(3) 環境管理責任者氏名 : 総務部長 久保 康一

連絡先 T E L : 03-3511-5811 F A X : 03-3511-5820

(4) 事業概要 : 医薬部外品(入浴剤、育毛剤他)、化粧品、雑貨品等の開発・製造・販売

(5) 事業規模 (2024 年 1 月現在)

項目	単位	本社	静岡工場	つくば研究所	北日本支店 首都圏第一支店 首都圏第二支店	中日本支店	関西・中四国支店	九州支店	合計
従業員数	人	94	107	36	43	14	22	10	326
敷地面積	m ²	950	19,175	3,127	450	145	249	113	24,210
床面積	m ²	950	11,954	2,033	450	386.55	249	113	15,527

2. 対象範囲

① 認証・登録の業務

医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨の開発・製造・販売

②認証・登録の範囲（2024年1月現在）

本社	: 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
静岡工場	: 静岡県藤枝市谷稲葉 242-1
つくば研究所	: 茨城県つくば市東新井 29-9
北日本支店	: 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
首都圏第一支店	: 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
首都圏第二支店	: 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
中日本支店	: 愛知県名古屋市東区葵 3-22-8 ニューザックビルディング 3F
関西・中四国支店	: 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-10 中尾ロイヤルビル 4F
九州支店	: 福岡県福岡市中央区天神 4-2-20 天神幸ビル 7F

③環境経営活動レポートの対象期間及び発行日

対象期間：2023年1月から2023年12月

第1版発行：2024年4月5日

第2版発行：2024年6月20日



3. 環境経営方針

環境経営方針

<基本理念>

株式会社バスクリンは、自然との共生を原点とする企業として、地球環境・地域環境に配慮し、健やかで心地よい生活を提供するため、下記の行動指針に基づき全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

<行動指針>

1. 当社の事業活動において、開発・生産、販売・物流、使用、廃棄の各段階における環境負荷の低減に資する活動を積極的に進めるため、次の項目を重点管理として取り組みます。

- 1) 環境配慮型製品の開発設計
- 2) 環境配慮型製品の販売促進
- 3) 電気・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- 4) 廃棄物の3R（減量、再使用、再利用）の推進
- 5) 節水の推進
- 6) 化学物質の削減

これらの項目について環境目標・活動計画を定め、環境経営システムを確立し、継続的な改善と汚染の防止に努めます。

2. 環境関連法規、規制及び当社が同意するその他要求事項を遵守します。

3. 環境への取組みについて、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2010年2月15日

改訂日：2019年1月1日

東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F

株式会社バスクリン

代表取締役社長 **三枚堂 正悟**

4. 環境経営目標と活動実績

4.1 2023年環境活動目標と活動実績（2023年度1月～12月）

	項目 (部門)	単位	2021年度 1月～12月 実績値	2022年度 1月～12月 実績値	2023年度 1月～12月 目標値	2023年度 1月～12月 実績値	評価	達成状況コメント
1	CO ₂ (全社) (実量)	kg-CO ₂	1,553,147	468,408	481,000	465,027	○	静岡工場のCO ₂ フリー電力の導入効果により目標を達成した。
	電力 (全社) (実量)	kwh	3,203,614	3,170,005	3,450,000	3,255,459	○	研究所照明のLED化、個別空調の活用、時間外労働の削減などにより、目標を達した。
	ガソリン参考 (全社) (実量)	L	71,493	68,264	77,000	72,377	○	エコドライブの推進、テレマティクスシステムの活用、ハイブリッド車の導入の推進等により目標を達成した。
2	産廃参考 (静岡工場+ つくば研究所) (実量)	t	918	1,002	1,100	1,131	×	製剤ロスの発生率の高い製品の生産増および返品が増加したために、目標未達だった。
3	水使用量参考 (静岡工場+ つくば研究所) (実量)	m ³	6,358	6,358	6,500	6,042	○	漏水点検の徹底、溶剤実験の効率化、洗浄水削減等により目標を達成した。
4	環境配慮型製品の開発設計 (つくば研究所)	-					○	プラスチック削減商品(「きき湯」サステナパック)を計画通り上市した。
5	販売促進物の廃棄量低減 (本社)	-					○	販売促進物数量の適正化を推進しつつ、販促物の内製化を徹底した。

購入電力の二酸化炭素排出係数は、事業活動による前年比を測定しアースグループにて報告しているために

東京電力の0.433kg-CO₂/kWh(2011年)を採用している。

ガソリンは2.322kg-CO₂/Lでの計算値を示した。

4.2 3カ年環境経営目標（2024年度～2026年度）

	項目	単位	基準年度	2024年度	2025年度	2026年度	
	(部門)		(2019年度)				
1	二酸化炭素排出量削減（全社） （電力、ガソリンから算出）	実量	t-CO ₂	1,371	475	484	494
		基準年度比	%	—	34.6	35.3	36.0
	消費電力の削減	実量	kwh	2,773,855	3,230,000	3,314,000	3,378,000
		基準年度比	%	—	116.4	119.5	121.8
	ガソリン使用量の削減	実量	L	73,142	74,000	75,500	77,000
		基準年度比	%	—	101.2	103.2	105.3
2	産業廃棄物排出量の削減 （静岡工場+つくば研究所）	実量	kg	1,075,000	1,186,188	1,200,860	1,214,471
		基準年度比	%	—	110.3	111.7	113.0
3	排水量の削減 （静岡工場+つくば研究所）	実量	m ³	5,014	6,350	6,400	6,450
		基準年度比	%	—	126.6	127.6	128.6
4	環境配慮型製品の開発設計 （つくば研究所）	—	—	包材重量減量化検討	包材重量減量化検討	包材重量減量化検討	
5	環境配慮型製品の販売促進の推進 （全社）	詰替え製品比率	%	68	81	81	81
6	環境人材の育成 （全社）	エコ検定合格者数	27名 累計213名	20名	20名	20名	

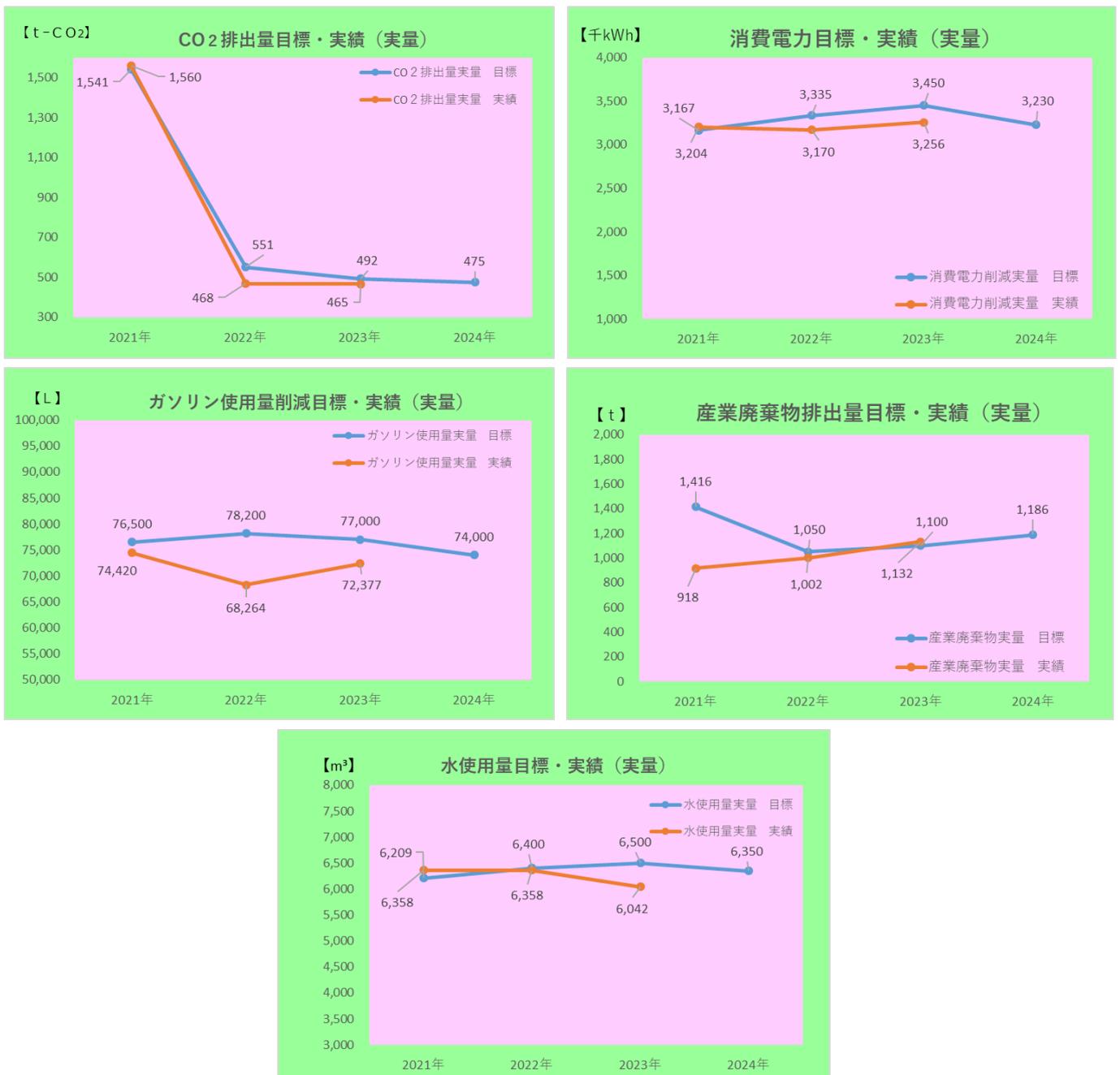
2022年2月より静岡工場はCO₂フリー電力の導入を行っている。

購入電力の二酸化炭素排出係数は、事業活動による前年比を測定しアースグループにて報告しているために東京電力の0.433kg-CO₂/kWh（2011年）を採用している。

ガソリンの二酸化炭素排出係数は2.322kg-CO₂/Lでの計算値を示した。



CO₂ 排出量・消費電力・ガソリン使用量・産業廃棄物・水使用量グラフ



有価物数量推移 (リサイクル) 【静岡工場】

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
段ボール	116,190	118,237	120,511	127,497	128,224	114,195	93,020	97,250	117,990	127,510	128,660	122,280
紙類	6,990	4,384	4,770	3,560	3,250	4,217	3,617	3,398	1,875	2,005	3,388	2,888
プラスチック類	39,546	53,205	74,328	41,638	40,372	18,610	32,340	36,533	26,426	27,546	29,124	19,838
金属類	13,660	21,123	16,457	13,333	12,646	14,194	18,601	13,651	18,126	16,739	17,665	17,508

段ボール・紙類・プラスチック類の増加要因は生産増によるものです。

※紙類：雑誌、新聞紙、シュレッダーゴミなど

プラスチック類：ビニール袋、ストレッチフィルム、プラスチックコンテナ、パレットなど

金属類：ドラム缶、一斗缶、機械設備など

5. 2023 年度の主要な環境経営活動計画（具体的取り組み内容）

	環境経営目標 (部門)	2023 年度の環境経営活動の取り組み内容
1	電気使用量の削減 (全社)	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、不要時の消灯、電源 OFF ・室温管理（冷房：28℃ 暖房：20℃） ・週3回ノー残業デーの徹底 ・非使用時の会議室空調停止 ・つくば研究所内照明（2F 全天井照明）の LED 化
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・香料切替え時の洗浄廃液の抑制 ・分別による有価物への転換 ・フレコン袋のリユース推進（有価買取業者との契約） ・工場での適切な分別処理実施 ・試作規模を毎回精査
3	水使用量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の漏水点検の徹底 ・部品洗浄時の水使用削減 ・品目切り替え（洗浄）作業の改善 ・節水の呼び掛け ・入浴剤評価実験の効率化検討 ・装置・機器洗浄における水使用量の削減
4	販売促進物の 廃棄量低減 (本社)	<ul style="list-style-type: none"> ・販促物作成数量の適正化 ・適宜使用の促進 ・販促物の内製化

6. 2024 年 1 月以降の取り組み内容

	環境経営目標 (部門)	2024 年度の環境経営活動の取り組み内容
1	電気使用量の削減	<p>特に夏場の消費電力削減の取り組み強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレワークの推進 ・室温管理（冷房:28℃ 暖房:20℃） ・使用していない電源 OFF

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1F 天井照明を LED 化（つくば研究所） ・ 週 3 日のノー残業デーの継続 ・ 昼休み時間中のエリアを区切った消灯（本社） ・ 帰宅時のパソコン電源のコンセント抜の徹底 ・ エア漏れ対応の実施（工場） ・ 節電パトロールの実施（本社）
2	産業廃棄物 排出量の削減 （静岡工場+ つくば研究所）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業部門との連携による返品削減 ・ 分別による有価物への転換 ・ リユースの推進（パレットを産廃から有価買取に変更） ・ 製造ロスの発生を少なくするための効率的な生産体制を強化 ・ 試作規模を毎回精査
3	水使用量の削減 （静岡工場+つくば 研究所）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な多面的節水行動 ・ 月一回の漏水点検 ・ 入浴剤評価実験の効率化検討 ・ 装置、機器洗浄における水使用量の削減
4	販売促進物の廃棄量 低減（本社）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末に在庫を残さないよう、営業部門への情報提供 ・ 事業所間の流動的な運用 ・ 再利用
5	環境配慮型製品の販 売促進（本社）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境に配慮した詰め替え商品の販売促進を推進 ・ 商談における啓発 ・ 使用促進
6	グリーン購入の推進 （全社）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境対応マークの付いた文房具の購入を推進
7	化学物質の削減 （静岡工場+ つくば研究所）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化管法対象物質、主要化学物質の月次購入管理 ・ 有害廃液の適正な回収 ・ 有害試薬の削減 ・ 製剤ロスの削減
8	環境配慮型製品の開 発設計 （つくば研究所）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境負荷を考慮した処方設計と環境負荷値の計測 ・ 処方決定での化管法対象原料の確認・承認 ・ 化管法対象物質減量処方の検討 ・ 包材重量減量化検討

7. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無

	該当する環境関連法規制	本 社	静 岡	つ く ば	確認 は○	遵守 評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法） ・収集運搬・処分先との委託契約の締結及び許可証 ・マニフェスト伝票の発行及び返却期限管理 ・産業廃棄物交付票の状況報告（事業所ごと）	●	●	●	○	違反 無し
2	毒物及び劇物取締法 ・毒劇物法定表示と毒物保管量管理		●	●	○	違反 無し
3	消防法 ・危険物の保管管理（届出指定数量以下）		●	●	○	違反 無し
4	容器包装リサイクル法 ・特定事業者としての帳簿の備えと5年間保管 ・主務大臣への定期報告 ・リサイクル費用の支払い	●			○	違反 無し

●は対象事業所

弊社に関わる環境関連法規等の遵守確認の結果、違反はありませんでした。

また、過去3年間にわたり関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直し結果

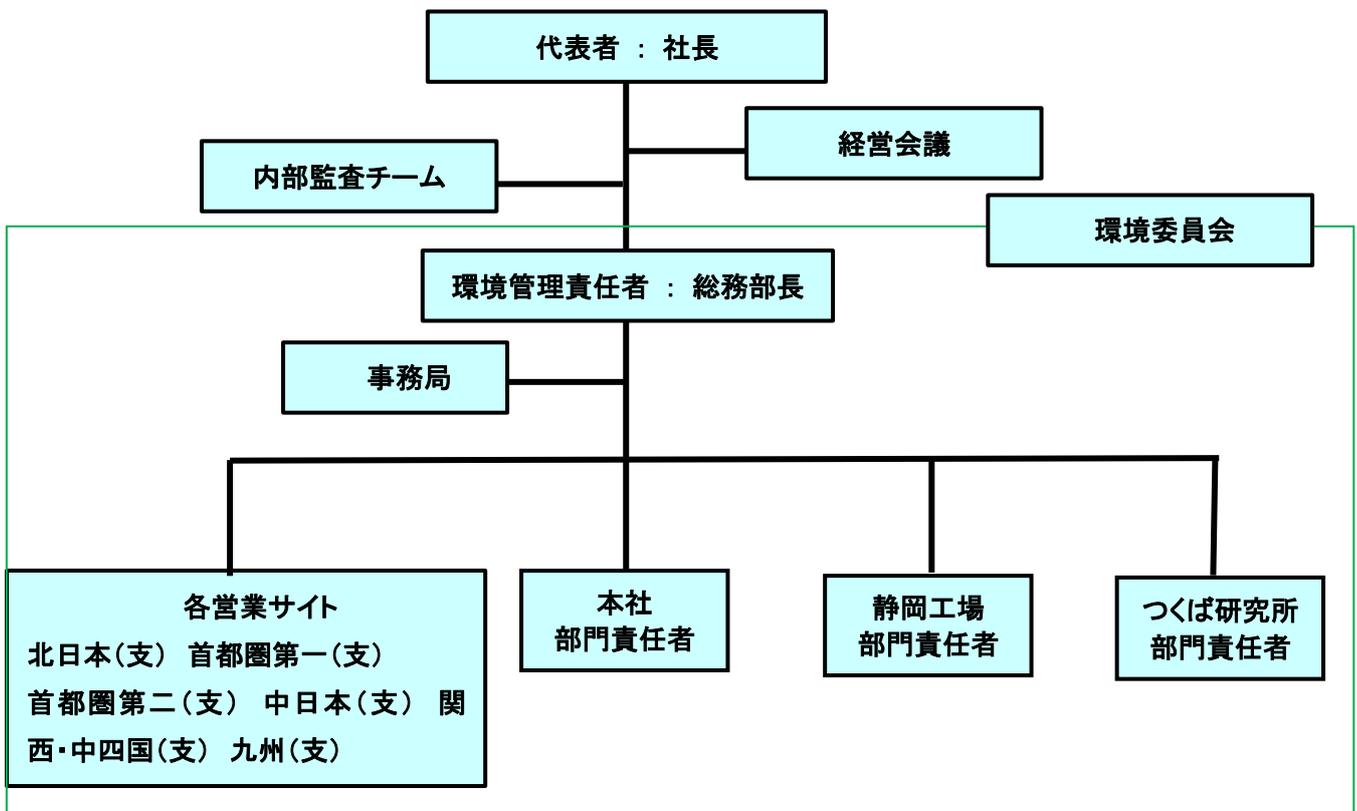
代表者による全体評価と見直しを2024年4月1日に実施し、下表の結果となりました。

	項 目	見直しの有無	評価コメント
1	環境経営方針の見直し	無	2019年度改訂した環境経営方針の浸透を一層強化する。
2	環境経営目標	無	今期より全社計のCO ₂ 、電気、ガソリン、産廃の数値管理を実数管理に移行した。引き続き実数管理を続けること。
3	環境経営活動計画	無	継続的に推進すること。

4	環境経営システム的な指示	無	内部監査員の養成を行うこと。 「eco 検定」の合格者数は全社員を目標とすること。 全社員に対して、環境情報の周知徹底を行うこと 各イベントを遅滞なくスケジュール通り進めること
5	全体評価コメント		環境経営方針の主旨を理解し、適切な目標の設定と対策の実施が図られている。 エコアクション 21 の新ガイドラインに沿って対応すること。 年間を通じて、全社的活動を継続する。

9. 環境経営推進体制

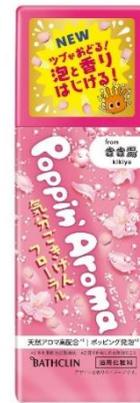
環境組織図【2024年3月31日現在】



10.2023 年度に発売された主な新製品・企画品



きき湯



ポッピングアロマ

ボトル・つめかえから「サステナパック」へ！
プラスチック使用量 約 75%削減（当社従来品比）



バスクリン
濃厚アロマ 柚子の香り



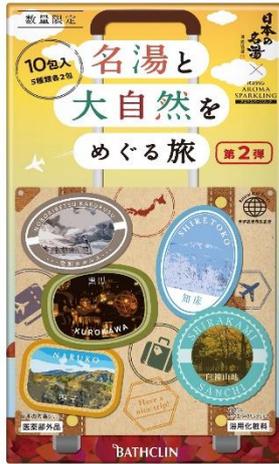
バスクリン
花ゆらら 金木犀の香り



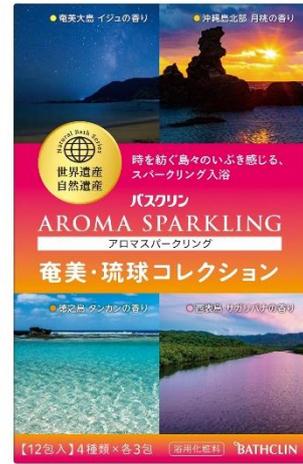
アールタイム
スパークリングタブレット
フランキンセンス&サンダルウッドの香り



日本の名湯 夢ごころ
アソート



名湯と大自然をめぐる旅
第2弾



バスクリン アロマスパークリング
奄美・琉球コレクション



シトラスアソート



ナイトアソート



素肌クリア
Aroma Collection



クラフトバス
やさしいラベンダーの香り



オフオフ
リラックスバーチの香り



まるでSPA帰り
ボディソープ

1 1.社内活動のトピックス

「eco 検定」の取り組み

「eco検定」の正社員全員取得を目標として活動しています。現在の取得率は**93.8%**（2023年度末時点）です。

eco検定 合格者数推移

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
18	45	57	45	7	5	5	9	18	20	13	30	19	15

水を育む、森を守る – 「バスクリンの森」プロジェクト



「水を育む、森を守る」をコンセプトにした「バスクリンの森」プロジェクトを行っています。

当社の環境保全への取り組みとして、入浴行為における最も重要な「水」資源の保全を目的として、「森林涵養機能（水の浄化等）」を高めるための森林整備活動を行っている企業の活動を支援しています。現在は、東京都檜原村にある森の整備事業を支援しています。



PET ボトルキャップの回収



CSR 活動の一環として PET ボトルキャップを
分別回収する運動に取り組んでいます。
回収された PET ボトルキャップは NPO 法人
「エコキャップ推進協会」を通じ、リサイクル
の過程で、障害者の方々の雇用を創出し、リサ
イクル業者に購入をしていただくことにより、
リサイクルによる CO₂ の削減、売却益で発展途
上国の医療支援に寄与しています。

CO₂の削減 雇用創出 再資源化

	キャップ個数	CO ₂ 削減量
2023年度	13,717個	100.49kg
累計	157,938個	1,163.99kg

◆つくば研究所での取り組み

事業所周辺の敷地・道路の清掃活動（つくば研究所）



地域貢献活動の一環として、毎週月曜日に事業所の回りの歩道・道路の清掃を行っています。



蛍光灯照明 ⇒ LED 照明 (つくば研究所)



◆工場での取り組み

工場周辺清掃



* 工場では市内の環境保全団体に加盟し、環境活動に参加しています。



13. 社外での取り組み

小中学校交流会への参加

首都圏の小中学校において『入浴剤研究者の職業体験』の講義を行いました。

講義の中では「水」の大切さ等話をしています。

講義の最後にはオリジナルの入浴剤を製作しました。



■ 環境活動レポートに関するお問い合わせ先
株式会社バスクリン 総務部CSR推進グループ
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
TEL: 03-3511-5811 FAX: 03-3511-5820
次回環境活動レポート発行予定：2025年4月 第16号